

科目名	基礎作業学実習Ⅲ						
担当講師	竹田 敦子 山川 志野						
実務経験の概要	竹田 敦子 作業療法士。医療施設・介護保険領域施設において実務経験を有する。 山川 志野 作業療法士。医療施設・介護保険領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	2	時間数	45	開講時期	後期
授業形態	講義 グループワーク グループ発表 実習						

授業概要

作業活動を通して作業が与える人への影響を考えるにあたり、実際の高齢者・障害者との関わりを通して進めていく。
包括的分析から段階を経て限定的分析に焦点を当てた上で臨地実習に望む。
臨地実習から得た経験をもとに作業の活用や対応を検討し総合実習へとつなげていく。

学修到達目標

1. 年代別の生活史を通して対象者の背景とその意味について調べる。
2. 作業活動を指導する上で必要な工程、方法、リスクについて配慮し準備することができる。
3. 実際の作業活動について対象者に配慮して実施することができる。
4. 作業活動についてその分析を通し影響することについて考察することができる
5. 主要な作業の作業分析および活動分析、作業遂行分析についてその意義を確認することができる。

授 業 計 画

第1回	オリエンテーション	山川志野
第2回	限定的作業分析について	山川志野
第3回	実習場面の振り返りと共有	山川志野
第4回	レクリエーション計画・準備①	山川志野
第5回	レクリエーション計画・準備②	山川志野
第6回	レクリエーション計画・準備③	山川志野
第7回	レクリエーション計画・準備④	山川志野
第8回	レクリエーション実習 / 生活史調査	竹田 山川
第9回	レクリエーション実習 / 生活史調査・実習フィードバック	竹田 山川
第10回	レクリエーション実習 / 生活史調査・実習フィードバック	竹田 山川
第11回	レクリエーション実習 / 生活史調査・実習フィードバック	竹田 山川
第12回	レクリエーション実習 / 生活史調査・実習フィードバック	竹田 山川
第13回	レクリエーション実習 / 生活史調査・実習フィードバック	竹田 山川
第14回	レクリエーション実習 / 生活史調査・実習フィードバック	竹田 山川
第15回	レクリエーション実習 / 生活史調査・実習フィードバック	竹田 山川
第16回	レクリエーション実習 / 生活史調査・実習フィードバック	竹田 山川
第17回	レクリエーション実習 / 生活史調査・実習フィードバック	竹田 山川
第18回	レクリエーション実習 / 生活史調査・実習フィードバック	竹田 山川
第19回	レクリエーション実習 / 生活史調査・実習フィードバック	竹田 山川
第20回	レクリエーション実習 発表準備 ・ 実習フィードバック	山川志野
第21回	レクリエーション実習 発表	竹田 山川
第22回	生活史調査 発表準備	山川志野
第23回	生活史調査 発表	竹田 山川

評価方法

グループ演習課題 (60%) レポート課題 (40%)

教科書

基礎作業学（協同医書出版社） 作業—その治療的応用（協同医書出版）

参考図書・文献

資料配布あり

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

これまでの基礎作業学実習の積み上げです。不足分は復習すること。

文献を参照しながら分析と対応の視点を広げられる取り組みに努めてください。

実習の進行に遅れがある場合には科目担当に相談し不足分を補えるよう必要な対応をしてください。

科目名	作業分析論Ⅱ						
担当講師	西城 学						
実務経験の概要	作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	1	時間数	30	開講時期	後期
授業形態	講義 グループワーク						

授業概要

ADL・IADLについて、観察評価を通して、対象者把握のための臨床的推論を学びます。また、作業分析手法を通し、ADL・IADL、各種作業の遂行に必要な要素についても学びます。

授業の中で生活行為向上マネジメントの生活行為工程分析の演習も行います。

学修到達目標

1. ADL・IADL活動の動画から、行っている動作とその特徴を述べることができる。
2. ADL・IADL活動の特性を踏まえ、作業遂行と環境の影響を述べるができる。
3. 予測される危険について想起することができる。
4. 状態像に応じた生活行為工程分析ができる。

授 業 計 画

- | | |
|------|---------------------------|
| 第1回 | 分析のための視点① AMPS運動技能とプロセス技能 |
| 第2回 | 分析のための視点② AMPS運動技能とプロセス技能 |
| 第3回 | 分析のための視点③ 観察記録の見直し |
| 第4回 | 入浴① |
| 第5回 | 入浴② |
| 第6回 | 入浴③ |
| 第7回 | 買い物① |
| 第8回 | 買い物② |
| 第9回 | 掃除① |
| 第10回 | 掃除② |
| 第11回 | 調理① |
| 第12回 | 調理② |
| 第13回 | 外食① |
| 第14回 | 外食② |
| 第15回 | まとめ |

評価方法

レポート課題 (100%)

教科書

配布資料

参考図書・文献

なし

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

事前事後ともに30分以上の学習。

科目名	身体障害作業療法学（中枢疾患）						
担当講師	細川 康紀						
実務経験の概要	作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	1	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義 グループワーク						

授業概要

前半は中枢神経障害（脳血管障害）の臨床像の確認から始まり、各病期に応じた作業療法士の関わりについて、また、後半では神経筋疾患・神経変性疾患を持つ対象者への作業療法士の関わりについて学んでいきます。

学修到達目標

1. 疾患ごとの特徴と予後について説明できる
2. 疾患ごとの評価について説明することができる
3. 疾患ごとの生活障害の特性について説明できる
4. 疾患ごとの作業療法について説明できる

授 業 計 画

- 第1回 脳血管障害の概要
- 第2回 脳血管障害の病態、障害像、回復メカニズム、機能的予後
- 第3回 脳血管障害の対象者に対する評価
- 第4回 脳血管障害の対象者の各病期に応じた作業療法①
- 第5回 脳血管障害の対象者の各病期に応じた作業療法②
- 第6回 脳血管障害の上肢機能回復に対する作業療法
- 第7回 脳血管障害の対象者へのADL指導・援助
- 第8回 脳血管障害の対象者への地域生活・社会参加支援、頭部外傷の概要
- 第9回 パーキンソン病の評価と作業療法①
- 第10回 パーキンソン病の評価と作業療法②
- 第11回 脊髄小脳変性症の評価と作業療法①
- 第12回 脊髄小脳変性症の評価と作業療法②
- 第13回 筋萎縮性側索硬化症の対象者に対する作業療法
- 第14回 多発性硬化症の対象者に対する作業療法
- 第15回 ギランバレー症候群の対象者に対する作業療法

評価方法

筆記試験100%（中間試験（60%） 期末試験（40%））

教科書

身体機能作業療法学（医学書院）、作業療法評価学（医学書院）、病気がみえる（メディックメディア）

参考図書・文献

脳画像の新しい勉強本（三輪書店）、作業で語る事例報告（医学書院）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

基礎分野（解剖・生理・運動学）や臨床医学の内容と結び付けて理解することが望めます。予習復習を確実にしましょう。

科目名	身体障害作業療法学（呼吸器・循環器疾患）						
担当講師	高橋 正基						
実務経験の概要	作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	2	時間数	45	開講時期	前期
授業形態	講義 演習						

授業概要

呼吸器・循環器に関する構造と機能を再確認し、呼吸器疾患・循環器疾患の原因や病態像、それに伴う評価や作業療法について学ぶ。

学修到達目標

1. 呼吸器・循環器に関する解剖、生理、メカニズムを説明できる。
2. 呼吸器疾患・循環器疾患の原因、病態を説明できる。
3. 呼吸器疾患・循環器疾患の評価、作業療法の概要について説明できる。

授 業 計 画

- | | |
|------|---------------------|
| 第1回 | 呼吸器の基礎（解剖・生理・運動） |
| 第2回 | 呼吸器の基礎（解剖・生理・運動） |
| 第3回 | 呼吸器疾患の概要（閉塞性・拘束性） |
| 第4回 | 呼吸器疾患の概要（閉塞性・拘束性） |
| 第5回 | 作業療法評価 |
| 第6回 | 作業療法評価 |
| 第7回 | 作業療法評価 |
| 第8回 | 作業療法プログラム・リスクマネジメント |
| 第9回 | 作業療法プログラム・リスクマネジメント |
| 第10回 | グループワーク 事例検討① |
| 第11回 | グループ発表 |
| 第12回 | 喀痰・吸引 |
| 第13回 | 循環器の基礎（解剖・生理・運動） |
| 第14回 | 循環器の基礎（解剖・生理・運動） |
| 第15回 | 循環器疾患の概要（閉塞性・拘束性） |
| 第16回 | 循環器疾患の概要（閉塞性・拘束性） |
| 第17回 | 作業療法評価 |
| 第18回 | 作業療法評価 |
| 第19回 | 作業療法評価 |
| 第20回 | 作業療法プログラム・リスクマネジメント |
| 第21回 | 作業療法プログラム・リスクマネジメント |
| 第22回 | グループワーク 事例検討② |
| 第23回 | グループ発表 |

評価方法

筆記試験 100% （中間試験（50%）期末試験（50%））

教科書

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

適時、講義を受けるにあたっての準備課題を課すので、確実に遂行し準備してください。

科目名	身体障害作業療法学（整形疾患）						
担当講師	竹田 敦子						
実務経験の概要	作業療法士。医療施設・介護保険領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	2	時間数	45	開講時期	前期
授業形態	講義 演習						

授業概要

運動器疾患を中心としそれぞれの疾患の障害像の理解とそれに必要な作業療法の治療・訓練・指導について、講義や症例提示による演習を通し理解を深めることを目的とします

学修到達目標

1. 疾患ごとの特徴と予後について説明できる
2. 疾患ごとの生活障害の特性について説明できる
3. 疾患ごとの作業療法について説明できる
〔脊髄損傷 関節リウマチ 末梢神経損傷 腱損傷 熱傷 骨関節疾患（骨折・関節炎他）〕

授 業 計 画

第1回	脊髄損傷 疾患の概要
第2回	脊髄損傷 作業療法評価
第3回	脊髄損傷 作業療法プログラム①
第4回	脊髄損傷 作業療法プログラム②
第5回	脊髄損傷 作業療法プログラム③
第6回	関節リウマチ 疾患の概要
第7回	関節リウマチ 作業療法評価
第8回	関節リウマチ 作業療法プログラム①
第9回	関節リウマチ 作業療法プログラム②
第10回	関節リウマチ 作業療法プログラム③
第11回	末梢神経損傷〔上肢を中心に〕 疾患の概要
第12回	末梢神経損傷 作業療法評価
第13回	末梢神経損傷 作業療法プログラム
第14回	腱損傷〔手指腱損傷・腱板損傷〕 疾患の概要
第15回	腱損傷 作業療法評価
第16回	腱損傷 作業療法プログラム
第17回	熱傷 疾患の概要
第18回	熱傷 作業療法評価/プログラム
第19回	骨関節疾患〔骨折・関節炎〕 疾患の概要
第20回	骨関節疾患 作業療法評価
第21回	骨関節疾患 作業療法プログラム①
第22回	骨関節疾患 作業療法プログラム②
第23回	骨関節疾患 作業療法プログラム③

評価方法

筆記試験 100%（中間試験（50%） 期末試験（50%））

教科書

標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版

参考図書・文献

病気が見える11 運動器・整形外科

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

障害像を理解するために解剖学・生理学・運動学を合わせて予習復習していきましょう。

科目名	身体障害作業療法学（老年期・内部疾患）						
担当講師	西城 学 山川 志野						
実務経験の概要	西城 学 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。 山川 志野 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	2	時間数	45	開講時期	前期
授業形態	講義 TBL グループワーク						

授業概要

高齢社会と高齢者の心身の特徴を理解し、そのうえで高齢者に多くみられる疾患、障害を中心に作業療法の実践について学びます。この授業は大きく、老年期における作業療法、認知症の作業療法、内部疾患の作業療法で構成しています。授業の一部でTBL(Team Based Learning)を取り入れ、グループで学習を進めていきます。

学修到達目標

1. 高齢社会と高齢者の心身の特徴について説明することができる。
2. 老年期における障害別の作業療法について説明することができる。
3. 認知症に対する作業療法について説明することができる。
4. 内部疾患に対する作業療法について説明することができる。

授 業 計 画

第1回	高齢者の定義と高齢社会	西城学
第2回	加齢に伴う変化（身体機能面、精神心理面）	西城学
第3回	介護予防と作業療法（フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドロームなど）	西城学
第4回	老年期における作業療法評価	西城学
第5回	老年期における作業療法の実際①（低栄養と栄養リハビリテーションについて）	西城学
第6回	老年期における作業療法の実際②（寝たきり・閉じこもり・廃用症候群）	西城学
第7回	老年期における作業療法の実際③（ポジショニング演習）	西城学
第8回	老年期における作業療法の実際④（各疾患モデルの理解）	西城学
第9回	認知症の概要	西城学
第10回	認知症の症状①（TBL）	西城学
第11回	認知症の症状②（TBL）	西城学
第12回	認知症の捉え方	西城学
第13回	認知症の作業療法評価①（TBL）	西城学
第14回	認知症の作業療法評価②（TBL）	西城学
第15回	認知症の作業療法①	西城学
第16回	認知症の作業療法②（TBL）	西城学
第17回	認知症の作業療法③（TBL）	西城学
第18回	内部障害の基礎①	山川志野
第19回	内部障害の基礎②	山川志野
第20回	内部障害と作業療法①/がん	山川志野
第21回	内部障害と作業療法②/糖尿病	山川志野
第22回	内部障害と作業療法③/下部尿路障害	山川志野
第23回	終末期作業療法について	山川志野

評価方法

筆記試験 60%（中間試験(30%) 期末試験(30%)） TBL（30%） 提出物（10%）

教科書

標準作業療法学 専門分野 高齢期作業療法学（医学書院） 認知症の作業療法（医歯薬出版）
身体障害作業療法学2内部疾患編（羊土社）

参考図書・文献

なし

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

事前事後とも30分以上の学習。
TBLを用いた講義が含まれますので講義前には必ず予習を行ってください。

科目名	高次脳機能障害作業療法学						
担当講師	西城 学						
実務経験の概要	作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	1	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義 TBL ディスカッション						

授業概要

高次脳機能障害の理解を深め、作業療法の実践について学ぶ科目です。高次脳機能障害は症状が多様で複雑であり、周囲から理解されにくいとされています。そのため生活機能に大きく影響を与えます。心身機能レベルだけでなく、活動・参加レベルを評価し、作業療法を実践できることを目指します。

授業の一部でTBL(Team Based Learning)を取り入れ、グループで学習を進めていきます。

学修到達目標

1. 脳の機能を理解し、運動や認知のプロセスを説明することができる。
2. 高次脳機能障害の概要を理解し、生活への影響を説明することができる。
3. 高次脳機能障害に対する評価と作業療法について説明と模擬実践ができる。

授 業 計 画

- | | |
|------|----------------------|
| 第1回 | オリエンテーション/脳の機能解剖① |
| 第2回 | 脳の機能解剖② (TBL) |
| 第3回 | 脳の機能解剖③ (TBL) |
| 第4回 | 画像の見方① |
| 第5回 | 画像の見方② |
| 第6回 | 高次脳機能障害に対する評価① (TBL) |
| 第7回 | 高次脳機能障害に対する評価② (演習) |
| 第8回 | 高次脳機能障害に対する評価③ (演習) |
| 第9回 | 意識・注意の障害に対する作業療法 |
| 第10回 | 行為の障害に対する作業療法 |
| 第11回 | 認知の障害に対する作業療法 |
| 第12回 | 言語・記憶の障害に対する作業療法 |
| 第13回 | 遂行機能障害に対する作業療法 |
| 第14回 | その他の障害に対する作業療法 |
| 第15回 | 高次脳機能障害と自動車運転 |

評価方法

筆記試験 (70%) TBL (30%)

教科書

標準作業療法学 専門分野 高次脳機能作業療法学(医学書院) 病気がみえる⑦脳・神経(メディックメディア)

参考図書・文献

なし

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

事前事後とも30分以上の学習。

TBLを用いた講義が含まれますので講義前には必ず予習を行ってください。

科目名	発達障害作業療法学						
担当講師	田中 弘美						
実務経験の概要	作業療法士 療育施設にて、発達領域における実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	1	時間数	30	開講時期	後期
授業形態	講義 グループ学習						

授業概要

発達障害作業療法の基本的とらえ方を理解し、各対象疾患の臨床像・評価・治療を学ぶことであらゆる発達障害に対応できる作業療法の習得を目指します。

学修到達目標

1. 発達障害の代表的な疾患の作業療法評価を説明できる。
2. 発達障害の代表的な疾患の作業療法（治療）を説明できる。
3. 発達障害を捉える作業療法理論の概要を説明できる。
4. 発達障害の代表的な疾患の作業療法プログラムを立案できる。

授 業 計 画

- | | |
|------|---------------------|
| 第1回 | 基礎知識 歴史・対象・実践現場・資質 |
| 第2回 | 基礎技術1 作業療法記録 |
| 第3回 | 基礎技術2 面接 |
| 第4回 | 脳性麻痺1 痙直型 臨床像 |
| 第5回 | 脳性麻痺2 痙直型 評価と治療 |
| 第6回 | 脳性麻痺3 アテトーゼ型 臨床像 |
| 第7回 | 脳性麻痺4 アテトーゼ型 評価と治療 |
| 第8回 | 筋ジストロフィー症 |
| 第9回 | 二分脊椎 |
| 第10回 | 分娩麻痺・骨系統疾患 |
| 第11回 | 知的障害・ダウン症候群 |
| 第12回 | 神経発達症1 自閉スペクトラム症 |
| 第13回 | 神経発達症2 注意欠陥・多動症 学習症 |
| 第14回 | 重症心身障害 |
| 第15回 | 事例検討 目標設定と治療プログラム立案 |

評価方法

筆記試験（60％） 小テスト（30％） ノート整理（10％）

教科書

イラストで見る発達障害の作業療法（医歯薬出版）

参考図書・文献

発達過程作業療法（医学書院）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

対象の医学的臨床像の理解が基本となります。リハビリテーション医学、整形外科学、神経内科学、小児科学、精神医学などの専門医学分野における各疾患の理解と合わせて、作業療法評価・治療を結びつけて実践力を身につけてください。

科目名	義肢装具学						
担当講師	竹田 敦子						
実務経験の概要	作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	1	時間数	30	開講時期	後期
授業形態	講義 演習						

授業概要

作業療法における技術的援助として義手や上肢装具，下肢装具を学習します。特に上肢装具については臨床での上肢装具の適応について疾患別でより臨床に即した内容の講義となります。

学修到達目標

1. 義肢装具に関わる作業療法士の役割について説明できる
2. 切断と義肢について説明できる（上肢切断と義手を中心に）
3. 装具について説明できる（上肢装具を中心に）
4. スプリントについて説明・作成できる
5. 疾患ごとの装具について説明できる

授 業 計 画

- | | |
|------|------------------|
| 第1回 | 【義肢学】切断と義肢 |
| 第2回 | 義手の分類 |
| 第3回 | 義手の構成要素 |
| 第4回 | 義手のチェックアウト |
| 第5回 | 義手の訓練 |
| 第6回 | 義足について |
| 第7回 | 【装具学】装具の分類 |
| 第8回 | 体幹装具・下肢装具1 |
| 第9回 | 体幹装具・下肢装具2 |
| 第10回 | 上肢装具の目的、適応、分類 |
| 第11回 | 手の疾患を中心とした代表的装具1 |
| 第12回 | 手の疾患を中心とした代表的装具2 |
| 第13回 | 手の疾患を中心とした代表的装具3 |
| 第14回 | 上肢装具作製1 |
| 第15回 | 上肢装具作製2 |

評価方法

筆記試験（100％）

教科書

作業療法全書 第9巻 義肢装具学（協同医書）

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

解剖学・運動学の知識を基本とし、疾患や対象者への適応を考えることが必要となります。基礎知識の確認をしっかり行いましょう。

科目名	精神障害作業療法学Ⅰ						
担当講師	岡崎 謙治						
実務経験の概要	作業療法士。医療施設、精神科領域施設における実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	1	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義 演習						

授業概要

これまで1学年では作業療法概論、リハビリテーション概論、作業療法評価学Ⅰ等、作業療法理論Ⅰ等履修してきた事についてを併せて抱える問題を医学的な面のみではなく法律、そして制度としての理解を併せて考えていきたい。国際生活機能分類（ICF）として社会参加を執り行っていくためには法律、制度も重要である。また個人の生活の中でのありようは「社会参加」として考えていくことも求められる。作業療法士としてこれらの点の理解を共に考えていきたい。

学修到達目標

1. 精神障がい領域における社会的背景について理解する。
2. 精神医療の歴史を理解する。
3. 障害者総合支援法について理解する
4. 精神障害者を取り巻く法律・制度について

授 業 計 画

- | | |
|------|---------------------|
| 第1回 | 精神障害者における社会的な背景について |
| 第2回 | 精神障害者と偏見 |
| 第3回 | 精神障害者に対する処遇・歴史 |
| 第4回 | 精神医療の現状と課題① |
| 第5回 | 精神医療の現状と課題② |
| 第6回 | 精神医療の現状と課題③ |
| 第7回 | 精神障害者を取り巻く法律・制度① |
| 第8回 | 精神障害者を取り巻く法律・制度② |
| 第9回 | 精神障害者を取り巻く法律・制度③ |
| 第10回 | 精神障害者を取り巻く法律・制度④ |
| 第11回 | 精神障害者を取り巻く法律・制度⑤ |
| 第12回 | 事例検討1 |
| 第13回 | 事例検討2 |
| 第14回 | 事例検討3 |
| 第15回 | まとめ |

評価方法

筆記試験（70％） レポート課題（30％）

教科書

資料を準備する。

参考図書・文献

講義の際に紹介する

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

精神・心理現象に興味を持てるようになって欲しい。多義性と個別性、主観性と客観性について共に考えていきたい。

科目名	精神障害作業療法学Ⅱ						
担当講師	岡崎 謙治						
実務経験の概要	作業療法士。医療施設、精神科領域施設における実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	2	時間数	45	開講時期	後期
授業形態	講義 グループワーク 演習						

授業概要

精神障害が生じる各疾患に対する作業療法について問題演習や事例演習を行うことで基本的な治療原理原則を理解する。また、事例から作業療法の思考過程を学生、教員とのやりとりを通して学ぶ。

学修到達目標

1. 疾患ごとの生活障害の特性と予後について述べる事ができる。
2. 疾患ごとの治療原則と作業療法について述べる事ができる。
3. 各疾患における回復過程や状況に応じた治療援助方法を述べる事ができる。
4. 各疾患における作業療法での問題点・治療目標の設定・プログラム立案での留意点を述べる事ができる。

授 業 計 画

第1回	オリエンテーションと精神科における治療的な関わりとその概要について
第2回	疾患別作業療法の展開：統合失調症①
第3回	統合失調症②
第4回	統合失調症③
第5回	気分障害①
第6回	気分障害②
第7回	神経症性障害
第8回	摂食障害
第9回	パーソナリティ障害
第10回	依存症
第11回	てんかん
第12回	各疾患における演習についての説明
第13回	事例検討：1
第14回	事例演習：1
第15回	問題演習：1
第16回	事例検討：2
第17回	事例演習：2
第18回	問題演習：2
第19回	事例検討：3
第20回	事例演習：3
第21回	問題演習：3
第22回	問題演習：4
第23回	まとめ

評価方法

演習課題（30％） 筆記試験（70％）

教科書

精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版 (中央法規)

参考図書・文献

精神科作業療法の理論と技術 (メディカルビュー社) 作業療法学全書 改訂第3版 作業治療学2 精神障害 (協同医書出版社)

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

配付資料はすぐに確認出来るようファイリングにて整理しておくこと。

事例演習と問題演習では予習や確認の準備をすること。

科目名	作業療法研究法Ⅰ						
担当講師	西城学 細川康紀 岡崎謙治 高橋正基 田中弘美 竹田敦子 山川志野						
実務経験の概要	西城 学 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。 細川 康紀 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。 岡崎 謙治 : 作業療法士。医療施設、精神領域施設において実務経験を有する。 高橋 正基 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。 田中 弘美 : 作業療法士。療育施設、発達領域において実務経験を有する。 竹田 敦子 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。 山川 志野 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	2	時間数	45	開講時期	後期
授業形態	講義 演習 オムニバス						

授業概要

研究について基礎的な知識を習得したうえで各自研究計画書を作成する過程を通し、研究の意義、手法、手順、論文の形式、発表方法を理解する

学修到達目標

1. 学術論文を読解する能力を身につける
2. 研究の意義、手法、手順、論文の形式、発表方法を理解する
3. 主体的に問題解決へ取り組む意欲と姿勢を養う

授 業 計 画

第1回	研究とは何か 目的 臨床実践と研究	岡崎謙治	他	
第2回	研究の流れ 研究のタイプ分類	岡崎謙治	他	
第3回	研究と倫理	岡崎謙治	他	
第4回	}	岡崎謙治	他	
第5回		岡崎謙治	他	
第6回		岡崎謙治	他	
第7回		岡崎謙治	他	
第8回		岡崎謙治	他	
第9回		岡崎謙治	他	
第10回		文献レビュー	岡崎謙治	他
第11回		調査研究	岡崎謙治	他
第12回		実験研究	岡崎謙治	他
第13回		研究計画の手順と論文の構成	岡崎謙治	他
第14回		シングルシステムデザイン研究の論文検討	岡崎謙治	他
第15回		岡崎謙治	他	
第16回		岡崎謙治	他	
第17回		岡崎謙治	他	
第18回		岡崎謙治	他	
第19回		岡崎謙治	他	
第20回	岡崎謙治	他		
第21回	研究に関わる基礎知識 統計解析	岡崎謙治	他	
第22回	研究に関わる基礎知識 統計解析	岡崎謙治	他	
第23回	研究に関わる基礎知識 統計解析	岡崎謙治	他	

評価方法

筆記試験（70％） レポート課題（30％）

教科書

資料を準備する。

参考図書・文献

講義の際に紹介する

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

テーマをしっかりと絞り込むこと。そのためには自分自身での課題の明確化が重要となります。この点の意識、理解を持つように注意してください。

科目名	作業療法治療学演習						
担当講師	西城学 岡崎謙治 高橋正基 田中弘美 竹田敦子 山川志野						
実務経験の概要	西城 学 : 作業療法士 介護老人保健施設にて、老年期領域における実務経験を有する。 岡崎 謙治 : 作業療法士。医療施設、精神領域施設において実務経験を有する。 高橋 正基 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。 田中 弘美 : 作業療法士。療育施設、発達領域において実務経験を有する。 竹田 敦子 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。 山川 志野 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	1	時間数	45	開講時期	後期
授業形態	PBL グループワーク						

授業概要
<p>これまでに学んだ知識を用いて作業療法実践に必要な臨床推論（クリニカルリーズニング）と具体的な介入方法について、事例を通して学ぶ科目です。教員がチューターとなり、小グループごとに学習を進めていきます。</p>

学修到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 自身の思考過程を言語化することができる。 根拠にもとづいて自身の考えを述べることができる。 症例を通じて作業療法過程（情報収集から作業療法プログラム立案まで）が行える。

授 業 計 画		
第1回	オリエンテーション/講義の進め方	西城学
第2回	臨床推論について	西城学
第3回	目標立案について	西城学
第4回	プログラム立案について	西城学
第5回	身体障害領域① 中枢神経疾患 【情報の整理】	山川志野
第6回	身体障害領域① 中枢神経疾患 【検討・発表準備】	山川志野
第7回	身体障害領域① 中枢神経疾患 【発表・ディスカッション】	山川志野
第8回	身体障害領域② 整形疾患 【情報の整理】	竹田敦子
第9回	身体障害領域② 整形疾患 【検討・発表準備】	竹田敦子
第10回	身体障害領域② 整形疾患 【発表・ディスカッション】	竹田敦子
第11回	精神障害領域① 疾患(1) 【情報の整理】	岡崎謙治
第12回	精神障害領域① 疾患(1) 【検討・発表準備】	岡崎謙治
第13回	精神障害領域① 疾患(1) 【発表・ディスカッション】	岡崎謙治
第14回	老年期障害領域① 認知症 【情報の整理】	西城学
第15回	老年期障害領域① 認知症 【検討・発表準備】	西城学
第16回	老年期障害領域① 認知症 【発表・ディスカッション】	西城学
第17回	老年期障害領域② 複合疾患 【情報の整理】	高橋正基
第18回	老年期障害領域② 複合疾患 【検討・発表準備】	高橋正基
第19回	老年期障害領域② 複合疾患 【発表・ディスカッション】	高橋正基
第20回	発達障害小域 【情報の整理】	田中弘美
第21回	発達障害小域 【検討・発表準備】	田中弘美
第22回	発達障害小域 【発表・ディスカッション】	田中弘美
第23回	まとめ	西城学

評価方法

筆記試験（50％） ルーブリック評価（50％）

教科書

講義内容に応じた教科書

参考図書・文献

なし

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

事前事後ともに30分以上の学習。

必要に応じてグループごとに調べ学習、ディスカッションを行ってください。

科目名	環境適応論Ⅰ						
担当講師	山川 志野						
実務経験の概要	作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	1	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義 演習						

授業概要

作業療法における環境の捉え方、支援について学ぶ。
実技・実習を通して福祉用具の使用方法や介助方法、留意点を学ぶ。

学修到達目標

1. 環境整備の意義と実際の進め方・留意点について説明できる。
2. 支援機器・福祉用具の特性を理解し、使用することができる。
3. 車椅子の調整やシーティングについて説明することができる。

授 業 計 画

- | | |
|------|------------------------------------|
| 第1回 | 作業療法における環境について |
| 第2回 | 住環境整備の意義 |
| 第3回 | 住環境整備の進め方と留意点 |
| 第4回 | 見取り図作成グループワーク |
| 第5回 | 見取り図作成グループ発表 |
| 第6回 | 福祉用具・高齢者体験 |
| 第7回 | 支援機器・福祉用具について（種類・特性、供給システム、アセスメント） |
| 第8回 | 支援機器・福祉用具について（ADL・IADL動作実技） |
| 第9回 | 支援機器・福祉用具について（ADL・IADL動作実技） |
| 第10回 | 車椅子調整・シーティング |
| 第11回 | 車椅子調整・シーティング |
| 第12回 | 自助具・福祉用具作成実習 |
| 第13回 | 自助具・福祉用具作成実習 |
| 第14回 | 車椅子体験実習 |
| 第15回 | 車椅子体験実習 |

評価方法

筆記試験（80％） レポート課題（20％）

教科書

OT・PTのための住環境整備論 第3版（三輪書店）

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

適時、講義を受けるにあたっての準備課題を課すので、確実に遂行し準備してください。

科目名	環境適応論 II						
担当講師	山川 志野						
実務経験の概要	作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	1	時間数	30	開講時期	後期
授業形態	講義 グループワーク						

授業概要

各種疾患や障害に対する環境整備と支援機器について学ぶ。
事例検討を通して、作業療法士としての臨床思考過程を学ぶ。

学修到達目標

1. 各疾患の概要を説明できる。
2. 各疾患に対応する環境整備を説明できる。
3. 各疾患に対応する支援機器を説明できる。

授 業 計 画

第1回	高齢者に対する環境整備	山川志野
第2回	脳血管障害に対する環境整備	山川志野
第3回	認知症に対する環境整備	山川志野
第4回	高次脳機能障害に対する環境整備	山川志野
第5回	脊髄損傷に対する環境整備	山川志野
第6回	パーキンソン病に対する環境整備	山川志野
第7回	筋ジストロフィー症に対する環境整備	山川志野
第8回	筋萎縮性側索硬化症に対する環境整備	山川志野
第9回	関節リウマチに対する環境整備	山川志野
第10回	内部障害に対する環境整備	山川志野
第11回	脳性麻痺に対する環境整備	山川志野
第12回	視覚・聴覚障害に対する環境整備	山川志野
第13回	グループワーク 事例検討①	山川志野
第14回	グループワーク 事例検討②	山川志野
第15回	グループ発表	山川志野

評価方法

筆記試験 (80%) レポート (20%)

教科書

OT・PTのための住環境整備論 第3版 (三輪書店)

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

適時、講義を受けるにあたっての準備課題を課すので、確実に遂行し準備してください。

科目名	地域援助論Ⅰ						
担当講師	岡崎 謙治 西城 学						
実務経験の概要	岡崎 謙治 : 作業療法士。医療施設、精神領域施設において実務経験を有する。 西城 学 : 作業療法士。介護老人保健施設にて、老年期領域における実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	1	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義 グループワーク オムニバス						

授業概要

対象者個々人の尊厳を尊重するということは、個人の生活を考えていくことである。少子高齢化、働き方の多様性、生産年齢人口の減少など日本の社会が抱える問題を解説していく一つの切り口として地域包括ケアシステムがある。医療－介護、そして医療－福祉の連携を考えていく際に作業療法士として理解しておくべき点を学ぶ。

学修到達目標

1. 日本の社会構造を理解する。(小高齢化、働き方の多様性、生産年齢人口の減少について理解する。)
2. 地域包括ケアシステムの基礎を理解する。
3. 4つの助を理解する。
4. 作業療法士としての援助の方法を理解する。

授 業 計 画

第1回	地域を知る	岡崎謙治
第2回	地域リハビリテーションと作業療法	岡崎謙治
第3回	制度・施策とのつながり	岡崎謙治
第4回	社会生活支援の理解の必要性	岡崎謙治
第5回	多職種連携と協働について	岡崎謙治
第6回	地域作業療法の枠組みの理解	岡崎謙治
第7回	住環境と地域づくりについて	岡崎謙治
第8回	支援プログラムとマネジメント	西城学
第9回	地域包括ケアシステムの理解①	西城学
第10回	地域包括ケアシステムの理解②	西城学
第11回	地域包括ケアシステムの理解③	西城学
第12回	地域作業療法の実践①	岡崎謙治
第13回	地域作業療法の実践②	岡崎謙治
第14回	地域作業療法の実践③	岡崎謙治
第15回	まとめ、総括	岡崎謙治

評価方法

筆記試験 (70%) レポート課題 (30%)

教科書

資料を準備する。

参考図書・文献

講義の際に紹介する

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

グループ活動を中心に進めます。グループでの役割を十分に理解して実践するように心がけること。

科目名	地域援助論 II						
担当講師	岡崎 謙治 竹田 敦子						
実務経験の概要	岡崎 謙治 : 作業療法士。医療施設、精神領域施設において実務経験を有する。 竹田 敦子 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	1	時間数	30	開講時期	後期
授業形態	講義 オムニバス						

授業概要

リハビリテーションの目標の1つは職業復帰です。作業 = occupationは職業とも訳され作業療法と大きな関連があります。働く意味と障害者の雇用の状況、障害者の就労に向けた職業評価や訓練の実施を考えます。

学修到達目標

1. 職業の定義と就労支援に関する理論を説明できる
2. 障害者の就労制度について説明できる
3. 就労支援における作業療法の役割を説明できる
4. 職業に関する作業療法評価について説明・実践できる
5. 精神障害・身体障害を中心とした障害ごとの就労支援について理解できる

授 業 計 画

第1回	職業関連活動概説	人と職業	竹田敦子
第2回	職業関連活動概説	職業関連活動の概念	竹田敦子
第3回	職業関連活動概説	人の職業的発達	岡崎謙治
第4回	障害者と職業	障害者の就労	岡崎謙治
第5回	障害者と職業	職業リハビリテーション	岡崎謙治
第6回	障害者と職業	障害者と就労援助体制の現状①	岡崎謙治
第7回	障害者と職業	障害者と就労援助体制の現状②	岡崎謙治
第8回	障害者と職業	障害者と就労援助体制の現状③	岡崎謙治
第9回	障害者と職業	障害者と就労援助体制の現状④	岡崎謙治
第10回	職業関連活動と作業療法	作業療法の意義	竹田敦子
第11回	職業関連活動と作業療法	作業療法の対象	竹田敦子
第12回	職業関連活動と作業療法	作業療法計画	竹田敦子
第13回	職業関連活動と作業療法	作業療法評価の実施①	竹田敦子
第14回	職業関連活動と作業療法	作業療法評価の実施②	竹田敦子
第15回	職業関連活動と作業療法	作業療法評価の実施③	竹田敦子

評価方法

筆記試験 (70%)、レポート課題 (30%)

教科書

資料を準備する。

参考図書・文献

講義の際に紹介する

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

グループ活動を中心に進めます。グループでの役割を十分に理解して実践するように心がけること。

科目名	作業療法管理学Ⅰ						
担当講師	田中 弘美						
実務経験の概要	作業療法士 療育施設にて、発達領域における実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	1	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義 グループ学習						

授業概要

人口構成の変化に伴う社会情勢の変化は著しく、作業療法の職域は幅広く、様々な働き方が求められています。多様な作業療法実践の場に対応できる作業療法士として、現在の医療・介護・保健のシステムの理解と、そこに求められる専門職として対象者に信頼される倫理観を身につけ、マネジメントの実際を学びます。

学修到達目標

1. 作業療法に関連する諸制度について説明できる。
2. 作業療法におけるマネジメントの概要を説明できる。
3. 組織の成り立ちとマネジメントについて説明できる。
4. 医療安全のマネジメントについて説明できる。
5. 作業療法士としての職業倫理観を述べるができる。

授 業 計 画

- | | |
|------|----------------|
| 第1回 | 作業療法管理学とは |
| 第2回 | 作業療法を取り巻く諸制度 1 |
| 第3回 | 作業療法を取り巻く諸制度 2 |
| 第4回 | 作業療法を取り巻く諸制度 3 |
| 第5回 | 作業療法を取り巻く諸制度 4 |
| 第6回 | 作業療法の専門性と人権尊重 |
| 第7回 | 作業療法におけるマネジメント |
| 第8回 | 組織の成り立ちとマネジメント |
| 第9回 | 情報のマネジメント |
| 第10回 | 作業療法と医療サービス |
| 第11回 | 医療安全のマネジメント |
| 第12回 | 各施設における安全管理 |
| 第13回 | 救急医療・救急対応 |
| 第14回 | 労務管理 |
| 第15回 | 職業倫理 |

評価方法

筆記試験（70％） レポート（20％） ノート整理（10％）

教科書

作業療法管理学第2版（医歯薬出版） リハベーシック安全管理学（医歯薬出版）

参考図書・文献

リハビリテーション管理学（医学書院）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

現在の医療・介護・保健システムを踏まえ職場管理に必要な能力を培うとともに、作業療法士としての職業倫理観を各自が深めて下さい。地域実習での経験を結び付けて理解を深めて下さい。

科目名	短期実習Ⅱ						
担当講師	西城学 細川康紀 岡崎謙治 高橋正基 田中弘美 竹田敦子 山川志野						
実務経験の概要	西城 学 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。 細川 康紀 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。 岡崎 謙治 : 作業療法士。医療施設、精神領域施設において実務経験を有する。 高橋 正基 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。 田中 弘美 : 作業療法士。療育施設、発達領域において実務経験を有する。 竹田 敦子 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。 山川 志野 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	3	時間数	135	開講時期	後期
授業形態	実習						

授業概要

作業療法参加型臨床実習の形態をとり、見学・模倣・実施のプロセスを進めていきます。臨床教育者のもと作業療法場面を通して臨床技能の習得を目的としています。また、その中で臨床教育者からの説明やディスカッションを通して臨床思考過程の理解を深めることも目的としています。

学修到達目標

1. 臨床教育者の指導・援助のもと作業療法（臨床技能）を模倣することができる。
2. 臨床教育者からの説明（臨床思考過程）を受け、その情報の意味を関連付けることができる。
3. 臨床教育者からの指導を受けながらリハビリテーションチームの一員としての行動をとることができる。
4. 実習を通して、自己の学習課題に気付くのみならず、改善するための行動をとることができる。
5. セミナーを通して、他者の情報も併せて整理し、述べることができる。

授業計画

実習期間

令和8年10月1日(木)～令和8年10月29日(木) (20日間)

実習施設

医療提供施設

実習内容

1. 臨床技能（情報収集、面接、観察、検査測定、治療、再評価）場面の見学および模倣
2. 臨床教育者から説明を受け、情報の意味や関連性をまとめる
3. 臨床教育者からの指導を受けながらリハビリテーションチームの一員としての行動をとる
4. 日々の自己の取り組みを振り返り、修正する

実習後セミナー

- ・グループごとに実習課題をまとめ、プレゼンテーションを行う。
- ・教員とのフィードバック面談を行う。

評価方法

実習地評定（30％）、セミナー評定（20％）、記録物（30％）、フィードバック評定（20％）を踏まえて総合評価を行います

教科書

なし（配布資料あり）

参考図書・文献

なし

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

実習課題に即した事前準備を行い臨むこと。

科目名	地域作業療法実習						
担当講師	西城学 細川康紀 岡崎謙治 高橋正基 田中弘美 竹田敦子 山川志野						
実務経験の概要	西城 学 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。 細川 康紀 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。 岡崎 謙治 : 作業療法士。医療施設、精神領域施設において実務経験を有する。 高橋 正基 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。 田中 弘美 : 作業療法士。療育施設、発達領域において実務経験を有する。 竹田 敦子 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。 山川 志野 : 作業療法士。医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	1	時間数	45	開講時期	前期
授業形態	実習						

授業概要

通所リハビリテーション事業所及び訪問リハビリテーション事業所において実習を行います。地域における事業所の役割やそこで働く作業療法士の役割を学ぶことを目的としています。また、地域包括ケアシステム、リハビリテーションマネジメントの理解を深めることも目的としています。

学修到達目標

1. 地域包括ケアシステムにおける通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションの役割を述べるができる。
2. そこで働く作業療法士の業務や役割を述べるができる。
3. 事業所間や多職種間の連携を見学し、その意義について述べるができる。
4. リハビリテーションマネジメントのプロセスについて述べるができる。
5. セミナーを通して、他者の情報も併せて整理し、理解を深めることができる。

授 業 計 画

実習期間

令和8年5月11日(月)～令和8年5月15日(金) (5日間)

実習施設

県内の通所リハビリテーション事業所、訪問リハビリテーション事業所

実習内容

1. 実習施設について事前に調べ、実際に通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションの特徴や役割を確認する
2. 通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションに従事する作業療法士の業務や役割を確認する
3. 事業所間、多職種間の連携場面を見学し、その意義について考える
4. リハビリテーションマネジメントのプロセスを見学し理解を深める
5. 臨床教育者の指導のもとリハビリテーションチームの一員としての行動をとる
6. 地域作業療法実習報告書を作成し、それをもとにセミナーでの発表と提出をする

実習セミナー

- ・実習内容について他者と情報を共有し、まとめたものを発表する
- ・実習に関連したテーマに基づきグループで話し合う

評価方法

実習地評定 (30%)、セミナー評定 (40%)、記録物 (30%) を踏まえて総合評価を行います

教科書

なし（配布資料あり）

参考図書・文献

なし

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

地域包括ケアシステム、リハビリテーションマネジメントを理解したうえで実習に臨むこと。